

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 2階 秋桜		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者様本位の生活に基づいた支援に努めることを運営理念としております。日常生活に様々なレクリエーションを取り入れたり、個人の身体能力の維持や衰えを最小限におさえるために、散歩や様々な体操を組み込んだりしております。また、ボランティアの方に音楽コンサート、人形劇、生け花などの行事も毎月行って頂き、利用者様の感性を大切に、明るく安全で楽しい生活が過ごせるよう、スタッフ一同意識しております。そして、利用者様の入居前の生活歴を大切に、その人らしい生活を送って頂ける様に暖かく支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にして、その人らしく生活ができる様に理念に基づいたケアをしている。また、普段の職務での気付きは、管理者に相談したり、カンファレンスで情報を共有し理念の実践へ繋げるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方を招いての定期的なミニコンサートや月1回の音楽療法、地域の先生による生け花教室などを実施している。また、自治会に加入して地域のお祭りや地藏盆などに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	地域の小学校の校外学習に協力して、小学生の当ホームへの体験学習を受け入れたり、小学校に出向いて子供達に認知症の理解を促したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の日々の様子や行事、施設運営における変更点の報告と共に、今後の運営や行事についての意見交換をしている。また、当ホームで実施している避難訓練や研修などにもご意見を頂いている。運営推進会議は、2ヶ月に1度行なっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員の方に参加して頂き、様々な情報提供をいただいている。また、地域包括会議にも毎月参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の意思や意向を尊重して、自由に行動できる様、玄関やエレベーター等に鍵を掛けない様にしている。もちろん各居室にもかぎは掛けていない。開放している為、職員が利用者様一人一人の行動を把握するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が常に虐待について、自覚と意識を持って職務に就くよう、カンファレンスや日々の業務内でも話し合うようにしている。また、社外・社内研修に参加し、虐待について学習している。		

グループホーム カスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・社外研修を通して、権利擁護や成年後見制度について学んでいる。全員が参加出来ない研修は、参加した職員がレポートを作成し、参加していない職員に伝え、共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には利用者様及び家族様に重要事項の説明を十分に行い、ご理解いただいた上で締結して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で常に利用者様の意見には耳を傾けている。ご家族様には来苑の際に直接ご意見を伺ったり、匿名アンケートを実施して、本音をお伺いしたりして運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なわれるカンファレンスにて、代表や管理者を交えて職員間の意見交換を行っている。また、日々の業務内で発生する連絡事項は、連絡ノートを作成し、全職員が必ず確認し情報共有するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が職務に集中出来るように、職員ひとりひとりの意見や発想を尊重している。休日も希望日に休日が取れる様に工夫している。また、チームワークの徹底を第一に考え、職員同士で意見交換ができる様、年2回の食事会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、社内・外研修に参加し、参加した職員は、レポートと共に、カンファレンス等でその内容について発表してもらい、全職員が共有できる様にしている。また、全職員が同時に参加出来るよう、施設に講師を招いて研修できる場を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、他施設への交換研修や研修会、連絡会主催の運動会などに参加して他施設との交流の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の話を傾聴し、受け止める姿勢を普段から大切にして信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に面会時に日頃の状況をお伝えし、ご意見を伺うとともに、話し合い、対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と話し合いながら、ご本人に合ったサービスや支援を考えている。また、日々の中で必要と思われるサービスがあった場合、即対応できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でお互いに教えあったり、学んだりしながら共に過ごすことで、信頼関係が生まれている。利用者様から学んだことや、得たものは全職員で共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がご来所の際は、普段のご様子や変化などをお伝えすると共に、レクリエーションや談笑を一緒に楽しまれたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客者は居室にご案内し、ご本人と一緒に過ごしていただいている。時には電話や手紙を出すことでご友人や知人との関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩、体操や家事など利用者様同士で協力したり一緒に楽しめる様な交流の場を多く設けている。また、ホールにて皆様が快適に過ごして頂けるようテーブルや座席の位置に気をつけている。		

グループホーム カスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内でお亡くなりになった方のご家族と数年は交流があったりするが、自然となくなる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に話を伺い、入居前のご趣味や習慣などをお聞きした上で支援を行なっている。ご本人からお話が聞けない場合も、本人本位の視点から支援を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等を利用してご家族様に利用者様のこれまでの生きてこられた過程について、少しでも多く教えて頂ける様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングで利用者様一人一人の心身状態を把握し、バイタルチェックや健康状態を記録して変化にいち早く気づき、対応できるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人はもちろん、ご家族様にも面会時やお電話にて介護計画に関するご意見を頂戴し、カンファレンスで十分チームで検討して介護計画を立てている。サービス開始後もモニタリングすることによって再検討や新たなサービスの追加なども行なっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録や健康管理表などを毎日記入することによって、全職員で情報を常に共有しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のサービスとは別に、季節に合わせた外出や外食イベントを企画したり、なじみの場所へドライブに行ったり、地域の公園や神社への散歩したりしている。		

グループホーム カスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方に利用者様の現在の要介護状態を報告することで、認定期間の更新時に素早く対応している。また、社協の方に運営推進会議に参加して頂いてことで地域の情報を得やすく、避難訓練への協力も得られやすい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、看護師による健康チェックを受けており、協力医の往診があり、24時間体制で対応して頂いている。また、入居前のかかりつけ医をそのまま継続出来ることも説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護の中で利用者様の異変や新しい情報から緊急を要すると判断した場合は、職場内の看護師や訪問看護師に電話で相談後、指示を受け対応したり、訪問してもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、定期的にご家族に連絡し、現状を確認したり、お見舞いに行った際に今後の様子について病院関係者と話し合ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は、主治医より説明を受けた上でご家族の希望を聞き、職員も含めて今後の方針を決める。その後も利用者様の状態の変化に合わせて主治医、ご家族と相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスの中で定期的に事故発生時の対応を職員間で確認している。その際、事例検討を踏まえてその発生の予防や発生後の対応について取り決めを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間と夜間それぞれを想定した避難訓練を実施している。訓練時は地域の方にも協力を得ながら行っている。また、連絡網を作成し、緊急時に直ぐに駆けつけられるように万全の体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いや態度には十分気を配るように全職員が自覚を持って職務に就いている。特に利用者様個人のプライバシーに関わる話をする時には、場所を変えたり、イニシャルを用いて話すように工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の多くの場面で利用者様が選択し、決定できる様に支援するよう心がけている。例えば居室の掃除などはご本人が希望する場合、その意思を尊重し見守ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴や食事、排泄など、必ず利用者様に意思をお聞きし、断りや拒否があった場合は無理強いせず、ご本人のタイミングに合わせるよう全職員が意識を持って職務に就いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際に、ご希望の洋服を選んで頂いたり、頭髪を整えたり、着衣の乱れがないか確認したりしている。また2ヶ月に1度は、出張理美容にてカットや毛染めを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人に合わせて食材を切ったり、調理をしたり、後片付けをしていただいたりして、食事を楽しんで頂いている。協力のお願いは、偏ることがないように気をつけて割り振りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態は、利用者様ひとりひとりに合った形で提供している。食事量や水分摂取量は、食事毎に記録し、過不足を把握し補うようにしている。体重の変動にも気をつけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアの支援を行なっている。その際に異常があれば、訪問歯科医に連絡している。		

グループホーム カスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方もおられるが、6名の方は排泄チェック表をつけることによって、把握する様になっている。6名のうち4名は声がけによってトイレ誘導している。2名は立位保持が困難でご本人の身体的負担も大きいため、ベット上での介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に乳製品を積極的に摂取したり、毎日体操をしている。頻繁に便秘になられる方もおり、腹部マッサージなども行なっているが、必要に応じて薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はひとりひとり楽しまれている。入浴中もできるだけご本人にできることはして頂き、見守るようにしている。拒否がある場合も入浴に興味を持って頂ける様な声がけをして楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を干し、シーツは定期的に洗濯して清潔を保つようにしている。夜間、不安で眠れない利用者様には、夜勤者が傾聴し、落ち着いて頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に意思による説明を受け、服薬に変更があった場合は、必ず連絡ノートに記載し情報を共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担表により、日々の生活に役割とメリハリを持って過ごしていただいている。また、ご本人やご家族に趣味や習慣をお聞きして、生活に取り入れたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや地域のお祭り、花見など多彩な行事を企画して、利用者様に季節を感じながら外出を楽しんで頂いている。ご家族様とお墓参りなどに行かれることもある。		

グループホーム カスタネット(秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際には、なるべく職員が同行し、職員の見守りの中、出来る限りお買物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話を掛けるサポートをしたり、手紙やはがき等も住所等の記入をお願いしてポストなどに投函したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候によって、エアコン等で空調管理を行っている。ホールだけでなく入浴の際も、季節に応じて浴室と脱衣所にエアコンで温度管理を行なっている。夜間は常夜灯のみ点灯し、むやみに照明をつけないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールに大型のソファを設置し、おひとりでごくつろいだり、利用者様同士で談笑されたりしている。特に廊下に設置されたソファではベランダ越しに景色や夕日を楽しまれていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の空間は、各利用者様にとっていちばん落ち着けるスペースを心がけている。なじみの家具や仏壇などを設置したり、ご家族や思い出のある写真や絵を配置したりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自お部屋の前に表札をつけて、ご自分の部屋をご自分で認識できる様にしている。トイレや浴室などにも同様に表札をつけてひとめでわかるように配慮している。また、必要な箇所には手すりを設置して安全面にも配慮している。		